宍粟 歴史再発見

宍禾郡（しさわのこおり）を巡る② ～第13回～
「播磨国風土記」の世界

「風土記」の酒

風土記の時代、「宍粟郡」と呼ばれていた宍粟市。宍禾郡の里で最初に登場するのが、宍粟市山崎町の比治（ひじ）地区に当たるとされる比治里です。

揖保川流域は、古くは「揖保郡」という一つの郡でした。孝徳（こうとく）天皇の時に郡が二つに分けられ宍禾郡が成立したと、この里の地名由来に記されています。孝徳天皇は、中大兄皇子や藤原鎌足による、いわゆる大化の改新の翌日に即位した天皇です。さまざまな改革のひとつに地方の行政組織の整備があり、比治里の記事は古代の政治改革の記憶を反映したものといえるでしょう。なお、里名は、この里の里長となった「山部比治」という人の名前に由来します。山部は大化の改新以前からあった、朝廷の山林を管理する集団で、播磨でも活躍しています。

ところで、「播磨国風土記」は他の風土記に比べ、お酒に関する話が多いことをご存じでしょうか。その中でも有名なのが、比治里の「庭音（にわと）村」、もと「庭酒（にわき）」の村の話です。

あるとき、「大神」の「御粮（みかれい）」がぬれて、カビが生えてしまいました。大神は伊和大神、御粮は神饌として供えられる蒸した米、強飯（こわめし）のことです。さて、カビが生えた御粮は酒に変わりました。それを神さまへ供える庭酒とし、酒宴が催されたと風土記は記しています。これが、米麹による酒作りの日本最古の資料です。

庭酒村はどこか、定説はありません。候補地の一つが一宮町能倉（よくら）に鎮座する式内社・庭田神社で、室町時代の地誌「峯相記」に伊和大明神の一族の社として挙がっています。神域を流れる水は「宮居の泉」を水源とし、冬でも温かいことから「ぬくね川」と呼ばれ、伊和大神が干飯を漬けてひと休みしたところ、干飯が発酵して酒になったと伝えられています。風土記の伝承と庭田神社の聖なる泉、この二つが結びついて生まれた伝説なのでしょう。

（播磨学研究所研究員　埴岡真弓）

▶ぬくね川

▶庭田神社

「宍禾郡を巡る『播磨国風土記の世界』」しそうチャンネルで6月26日から7月10日まで放送予定。
ぜひご覧ください。番組表は宍粟市HPやテレビの「番組表ボタン」で確認できます。

おいでよ図書館へ

宍粟市立図書館 ☎ 62-4620

古典を読む会

毎月第２金曜日
午前10:00～11:30

「源氏物語」と「平家物語」の世界を講師による解説で楽しみます。
参加費無料（テキストは有料）
問合せは図書館へ

今月のオススメ

雨の名前

著者／高橋順子　写真／佐藤秀明

天泣、蛙目隠、狐の嫁入り、七夕流し…これらは全て雨の呼び名です。さまざまな雨の名前を紹介し、日本独特の表現の美しさを感じる一冊です。

世界の美しい透明な生き物

編集者／澤井　聖一

ガラスのような羽の蝶や透けて体の中が丸見えの魚、深海の奇妙なクラゲなど、見たことのない不思議で魅力的な透明生物たちの世界が広がる写真集です。

図書館カレンダー

□休館日 □館内整理日（休館）
［開館時間］午前10時～午後5時30分

	日	月	火	水	木	金	土
6月	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	・	・	・	・	・
7月	・	・	1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31	・	・

編集後記

今月の表紙は「旧車まつり」です。写真のオープンカーは「ダットサン・フェアレディー」。現在のフェアレディーZの原型となった車です。製造から45年以上経っていますがボディーもエンジンもピカピカに整備され、オーナー（持ち主）の愛着心がうかがえました。

「旧車まつり」は、太子町を拠点に活動中の愛好団体がその魅力を多くの人に知ってもらおうと初めて企画されたもので、宍粟市が会場をお貸しするという形で行われました。愛好団体のメンバーは「宍粟市民の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです」と話され、閉会後にゴミ袋を持って会場内の隅々までゴミ拾いをされていたのが印象的でした。　安

広報しそう 6月号　平成26年6月13日発行（111号）
発行／宍粟市役所　編集／企画総務部秘書広報課
〒671-2593 兵庫県宍粟市山崎町中広瀬 133-6
☎0790-63-3000(代)　info@city.shiso.lg.jp　http://www.city.shiso.lg.jp

VEGETABLE OIL INK
この広報紙は環境保護のため、植物油インキと古紙再生紙を使用しています。